

NOISE!

J's 小径リムの最新事情

SMALL WHEELS

source : ワーク西日本 06-6746-2859 ワーク中日本 052-777-4312 ワーク東日本 048-688-7555
http://www.work-wheels.co.jp/
photo : Kenji Isebaiba

ネオクラシックデザインが定番となっているスタンスリムシーン。切削マシンの進化もあり、今までにない変幻自在なデザイン&サイズが可能となっている。そんな事情のなか、ジャパニーズメーカーの小径リム勢が威厳と伝統を持たせた新リムを発表！ まずは今年40周年を迎えたワークよりメモリアルな新エクイップが誕生だ。

ワーク40周年記念の特別なエクイップ



#.01 WORK Equip 40

ワークにとって今年はずっと特別な年である。本誌が店頭に並ぶころには創業から40年を迎えるのだ。そんな記念すべき瞬間をカタチにすべく、一つのモデルが誕生したのだが、これがとても深い。と言ってもリム幅のことではなく、奥深いけど物語の内容のことだ。

与えられた名前には、エクイップ40。お馴染みのエクイップシリーズの新作であることは容易に分かるが、1977年に創業した際にリリースしたのがエクイップ。なのを知っている人は本誌の読者にどれほどいるだろうか。マイスターやシーカー、エモションなどと同じくシリーズとして今も現役だが、ワークホイールのオリジナルこそが、エクイップであることを覚えておいてもらいたい。そのシリーズの40周年モデル、エクイップ40。実はワークの名物カメランのフランス人、JC・ヨシノ氏が、80年代に同社がフォーミュラ参戦時に履かせていたホイールのデザインに感銘を受け、21世紀の現在にリバイバル&リデュースさせたのだ。そのデザインはまさに、に逆説そのもので、いかにも型押しと言わんばかなりの4本スポークにフィニッシュは肌目をザラつかせてクラシカルに、ピエラスポルトの本数も当時を思わせる少なめで、現行のエクイップシリーズよりも気持ちはモルムセンター仕様、ネオクラシックムーブメントが再燃している昨今、このアプローチにガツンとキテしまう人も少なくないはずだ。

- 1960年式トランプTR3A ●カスタリア:TRA 京都(ワロントスボイラー、前座オーバーフェンダー) ●ホイール:エキップ40 (F=15×8J-18、R=15×9.5J-25) ●タイヤ:フクマ=17 (F=225/60-15、R=245/40-15) ●インテリア:ブリッド・ヒストリックシート×2



もともとは個性的なカラーとワイヤーホイールの「これぞクラシックカー」的なTR3Aをベースに、TRA、京都三浦氏のデザインによってスポイラー、フロント50mm&リア70mmワイド化されたフェンダーをワンオフ。まさに生まれ変わったかのような佇まいを見せてる。



ライトモデルでは必ず出せないリアルクラシックレースをインテリアに、ブリッドの高須氏から贈られたローバックシートが「ヒストリック」をセッテ、これがまたパワンの個性を見せてくれた。



ホイール諸元

- サイズ:15×5.5-13J
- 構造:3ピース
- ボルト規格:PCD:4H-100、4H-143
- カラー:ブリッドシルバー、スプラッシュゴールド
- 価格:3万8000~5万3000円 (税込)
- オプション:ブラックピニアスボルト、ブラックファンシャ、ブラックエアバルブ、SUSボルト、SUSワッシャー、エアバルブ V20M

レース時代とともに生き抜いた伝統のエキップ



「T.R.A.が企画して生み出した新作エキップ40の推出として先代に代りキーステンション、先代

そんな「古くして新しい」記憶すべきモデルを「車庫」押し留めて、これまで「楽しいドライブ」をもつ、興奮を「オーブンファン」に託し、多くの人に与えられる人は、多くはないはず。1月に開催された東京オートサロンで、お披露目となった「このクルマが、みなさんにならうが、その正体は、イギリスのメーカー、トリアンフ、社のTR3A」というモデルだ。...と語られてもよい。クルマと、車人も、関係はない。...と語られてもよい。クルマと、車人も、関係はない。...と語られてもよい。クルマと、車人も、関係はない。...

新エキップが履かれたファーストカーは、先代の思いを受け継ぎ、T.R.A.でワイド化されたトリアンフ!